

恵那市における中学校国語の結果分析

恵那市教育研究所

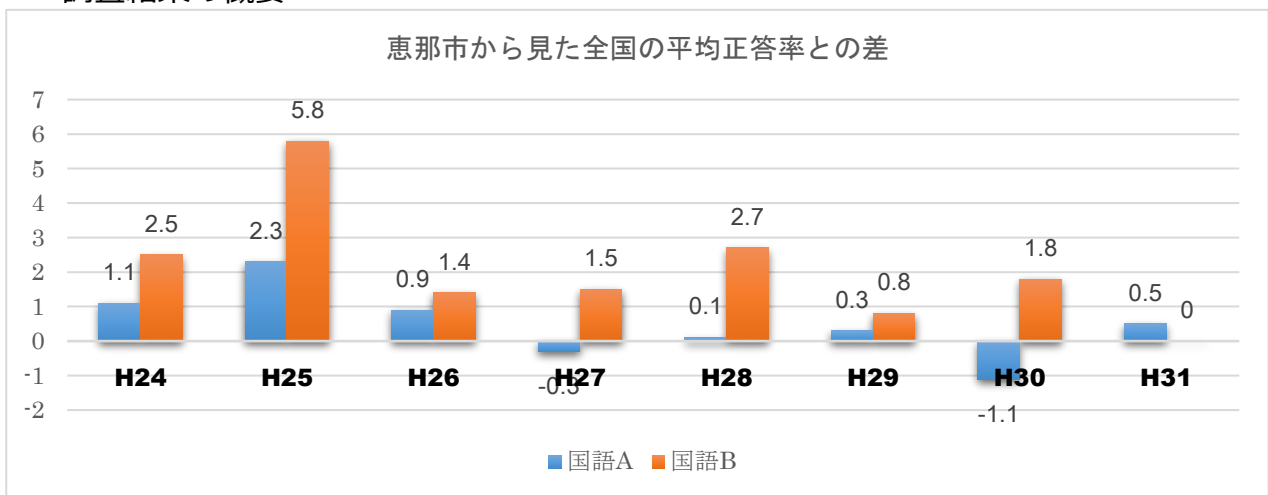
■ 平均正答率

- 恵那市 73.3%
- 県 75%
- 全国 72.8%【恵那市から見た国との差 +0.5】

■ 集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)				
			恵那市	岐阜県（公立）	全国（公立）	県差	国差
全体		10	73.3	75	72.8		0.5
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	72.0	73.0	70.2	▲1.0	1.8
	書くこと	2	84.3	83.8	82.6	0.5	1.7
	読むこと	3	70.6	74.7	72.2	▲4.1	▲1.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	68.4	70.6	67.7	▲2.2	0.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	77.8	78.8	76.5	▲1.0	1.3
	話す・聞く能力	3	72.0	73.0	70.2	▲1.0	1.8
	書く能力	2	84.3	83.8	82.6	0.5	1.7
	読む能力	3	70.6	74.7	72.2	▲4.1	▲1.6
	言語についての知識・理解・技能	2	68.4	70.6	67.7	▲2.2	0.7
問題形式	選択式	6	74.2	76.0	73.6	▲1.8	0.6
	短答式	1	54.6	59.7	56.8	▲5.1	▲2.2
	記述式	3	77.8	78.8	76.5	▲1.0	1.3

■ 調査結果の概要



平均正答率の差を見ると、県との差は昨年度までと比較してやや開きました。全国との差は、今回の実施から A 問題・B 問題の区別がなくなったため、単純な比較はできませんが、ほぼ昨年度・一昨年度と変わらず、若干上回っていると見ることはできます。

学習指導要領の領域別に見ると、特に「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において県と差が開いていることが分かります。文章を読んで、内容や構成、表現の仕方やその効果について捉えながら読むことにやや課題が見られます。

■ 指導改善のポイント

課題の見られた問題の概要

1 情報を読む（新聞）

1— 恵那市の
平均正答率 **61.2%**

「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものと適切なものを選択する。

☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

http://www.nier.go.jp/19chousa/pdf/19mondai_chuu_kokugo1.pdf

http://www.nier.go.jp/19chousa/pdf/19mondai_chuu_kokugo2.pdf

問題番号		解答類型		正答	自校	恵那市	全国
1	—	1	1と解答しているもの			22.1	19.3
		2	2と解答しているもの	◎		<u>61.2</u>	<u>63.9</u>
		3	3と解答しているもの			8.9	7.7
		4	4と解答しているもの			7.6	8.9
		99	上記以外の解答			0.0	0.1
		0	無回答			0.3	0.1

■ 解答の傾向について

正答の【解答類型2】を選んだ生徒は6割を上回っていますが、本問は全国の平均正答率との差が最も大きかった設問です。問題文の中の□部分には、「弁当」、「漫画」など、本シリーズで取り上げる内容を最初に示したリード文に当たる箇所です。この□で囲まれた部分を位置付けることで、読み手に本シリーズの見通しをもたせるという書き手の意図を、正答した生徒は捉えることができていると考えられます。

一方、誤答である【解答類型1】を選んでいる生徒も5分の1以上います。このように解答した生徒は、「弁当」、「漫画」、「俳句」等の語句に着目し、「日本の文化の例」が「複数」示されていることは捉えられています。しかし、□部分が「今後の掲載の見通しをもつことができるように」するための役割・機能を有していること、書き手がそのように意図して示していることが理解できていないものと考えられます。

【解答類型3】、【解答類型4】も同様で、部分的に必要な情報を取り出すだけではなく、文章全体を読んで構成や展開、内容について捉えさせていく必要があります。

■ 学習指導に当たって

説明的な文章の学習を行う際に、文末表現や接続する語句、重要語句に着目させるなど、文章の表現の仕方について考えさせることは恵那市のこれまでの実践でも大切にされてきています。

そうした実践の積み重ねを大切にしつつ、**文章の構成や展開**について考えたり捉えたりさせる実践を今後、行っていくことが大切です。

文章の構成や展開を捉えるためには、段落等のまとまりごとの大要をつかむ必要があります。「**何を書いてあるか**（内容）」、「**どのように書いてあるか**（構成や展開、表現の仕方）」、「**なぜそのように書いてあるか**（目的や意図）」を読んでいくことが必要です。部分的な叙述に着目する読み方から、中心となる文を見付けたり、複数の叙述を関連付けたりする読み方へ広げていくことが大切です。

学年	教材名	文種	学習活動
1	幻の魚は生きていた	説明	文章のまとまりの中で中心となる文に着目し、筆者の主張がどのような筋道で書かれているかを読む。
2	君は「最後の晩餐」を知っているか	評論	筆者の主張を、論理の展開の仕方、示されている根拠、挙げられている事例に着目しながら読む。
3	作られた「物語」を超えて	論説	どんな事例が挙げられ、それがどのように意味付けられて筆者の主張が導かれているかを読む。

こうした読みを、根拠を具体的に示しながらグループ等で交流することを通して、文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる力を身に付けていくことが大切です。

第4段落で示された筆者の「なぜか『かわいい』と思った」の理由が、第19段落で明らかにされているね。



レオナルドが絵画の科学を駆使して表現しようとしたものが、とてもよく見えてくるから、ということだね。
この「絵画の科学」というのは……